

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 16 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2016

課題番号：23500296

研究課題名(和文) 大学図書館の学習支援空間における人材育成プログラム・モデルの構築

研究課題名(英文) Construction of a Human Resource Development Program Model in Learning Support Spaces of College and University Libraries

研究代表者

呑海 沙織 (DONKAI, Saori)

筑波大学・図書館情報メディア系・教授

研究者番号：60523173

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、学習支援空間における学生アシスタントの意義を明らかにし、その育成プログラムについて検討することである。北米の大学図書館では1990年代頃より、ラーニング・commons等の新しいタイプの学習支援空間が普及している。その構成要素は、施設・設備、資料、人的支援に大別することができる。本研究では、人的支援の中でも学生アシスタントに焦点をあて、高等教育機関を対象とする質問紙調査および先進的な学習支援空間の現地調査を実施することによって、学習支援空間および学生アシスタントの実態を明らかにするとともに、学習支援における意義について考察し、育成プログラムについて検討を行った。

研究成果の概要(英文)：The purposes of this study are to clarify the significance of student assistants in learning support spaces and consider the development program. New types of learning support spaces like learning commons are becoming popular in college and university libraries in North America since around 1990s. The components can be classified roughly into (1) facilities and equipment, (2) materials, and (3) services. This study, focusing on services by student assistants, conducted a questionnaire survey of higher education institutions and a field survey of progressive learning support spaces in order to clarify the actual conditions of learning support spaces and student assistants as well as discussed the significance in learning support and considered development programs.

研究分野：図書館情報学

キーワード：学習支援 大学図書館 ラーニング・commons 学生アシスタント

1. 研究開始当初の背景

北米の大学図書館では1990年代頃より、インフォメーション・commonsやラーニング・commonsといった学習支援に焦点をあてた新しいタイプの学習支援空間が普及している。学習支援空間を質的に向上させるには、「人的支援」の充実が不可欠である。北米の学習支援空間では、学習支援に関わるさまざまな人的支援が提供されている。例えば、レファレンス・サービス、資料の利用指導にとどまらず、情報通信技術活用のサポート、ライティング・サポート、科目補習、キャリア支援、言語学習支援など、多岐にわたる。

これらの広範囲にわたる学習支援空間における人的支援は、従来の図書館スタッフのみで充足させることはできないし、専門性という観点からすべきではない。そのため、ライティング・センターやコンピュータ・センターの職員や教員との連携、学生アシスタントの活用によってこれらを実現させている。

このような学習支援空間の考え方は、日本の大学図書館においても採用されつつある。しかし、その多くはコンピュータなどの情報通信機器の設置やグループ学習室、カフェなどの施設・設備に主眼が置かれる傾向にあるのが実情である。学習支援空間を効果的に活用するためには、施設・設備や資料だけでなく、人的支援の充実が不可欠である。

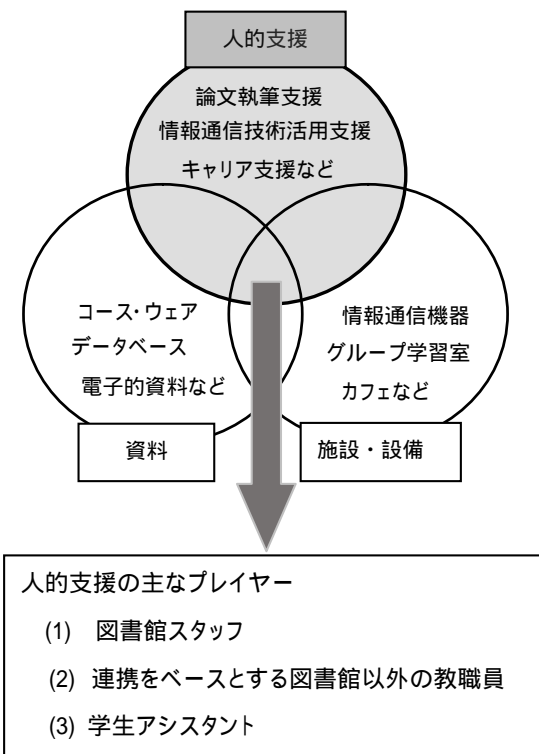


図1 学習支援空間の構成要素

2. 研究の目的

本研究の目的は、学習支援空間における学生アシスタントの意義を明らかにし、その育成プログラムについて検討することである。

学習支援空間の構成要素は、施設・設備、資料、人的支援に大別することができる。本研究では、人的支援に着目し、なかでも学習支援空間の質的向上のカギとなる学生アシスタントに焦点をあてた。

3. 研究の方法

(1) 高等教育機関の図書館を対象として、学習支援空間および学生アシスタントの実態に関する質問紙調査結果の分析を行った(四年制大学:2010年7月~8月,短期大学および高等専門学校:2011年2月~3月)。送付数は、四年制大学755館,短期大学217館,高等専門学校58館,回収率は、四年制大学69.4%,短期大学60.8%,高等専門学校65.5%であった。質問項目は、学習支援に関する資料・設備・サービス、図書館における学生アシスタントの学習支援サービスへの関与、学習支援に関する他部署との連携、各種計画・評価文書内での図書館の学習支援活動への言及、ラーニング・commonsの設置状況等である。

(2) 学習支援空間における学生アシスタントの役割や意義を明らかにすることを目的として、国内外のラーニング・commonsやインフォメーション・commonsなどの先進的な学習支援空間を対象として現地調査を行い、グッドプラクティスの収集を行った。調査対象は、OECDのラーニング・commonsに関する調査(Susan McMullen, US Academic libraries: Today's learning commons model. PEB Exchange, OECD, 2008)の対象館や、準専門職と位置付けられる学生アシスタント「ピア・ヘルパー」を導入するゲルフ大学(カナダ)等である。

4. 研究成果

(1) 質問紙調査において、「学生の自主的な学習を支援するためのサービス・資料・設備を総合的にワンストップで提供している空間」(以下、ラーニング・commons)を「提供している」と回答した図書館は、高等教育機関で94館(13.8%)であった。94館の内訳は、四年制大学が80館,短期大学は7館,高等専門学校は7館であった。提供している割合は、四年制大学が15.5%,短期大学が5.4%,高等専門学校が18.9%と、短期大学が一番低かった。

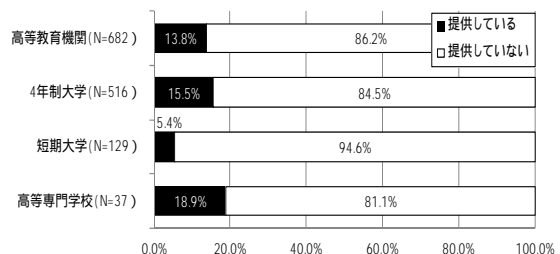


図2 ラーニング・commonsの設置率 (N=94)

最も早い設置は 1970 年であり、これを含めて 1970 年代に 3 機関がラーニング・commonsを設置したと回答した。いずれも高等専門学校であった。2000 年代半ば以降、設置数は増加しており、特に 2009 年の設置は 25 館であった。

これらの結果から、高等専門学校の図書館において比較的早くラーニング・commonsの機能をもつ学習支援空間が導入されており、比較的普及率も高いことが明らかになった。高等教育機関全体の設置率は 13.8%にとどまっているものの、2000 年半ば以降の伸び率をみると、今後も設置が進むことが推察できる。

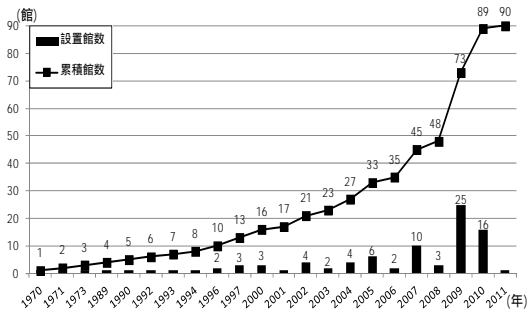


図3 ラーニング・commonsの設置時期 (N=90)

(2) アルバイトやボランティアを含む学生スタッフが図書館のサービスへ関与しているかどうかを尋ねた結果、学習支援サービスに関わらず図書館サービスに「学生スタッフはいない」が、高等教育機関で 38.9% (251 館) であった。この回答の割合は、短期大学で多く、短期大学では 67.8% (82 館) の図書館が図書館サービスへ学生スタッフの関与がなかった。「学習支援に関するサービスに、学生スタッフに関与していない」とする図書館が、高等教育機関で 38.7% (250 館) であった。「学習支援サービスに学生スタッフに関与している」と回答した図書館は、高等教育機関で 22.4% (145 館) であった。特に高等専門学校で学習支援サービスに学生スタッフに関与している図書館の割合が高く 30.6% (11 館) であった。一方で短期大学は、学習支援サービスへ学生スタッフに関与している図書館の割合が低く 6.6% (8 館) であった。

学習支援サービスに学生スタッフに関与している図書館の中で、学生スタッフに関与しているサービスとして最も回答の多かったサービスは、「図書館オリエンテーション」で 35.2% (51 館) であった。次いで、「情報通信技術支援サービス」で 16.6% (24 館) であった。選択肢としてあげた「情報リテラシー講習会」、「文章作成支援サービス」、「ウェブ上での文献利用教育」、「ウェブまたは電子メールによる予約リクエスト・サービス」、「ウェブまたは電子メールによるレファレンス質問の受付

と回答提供」、「ウェブまたは電子メールによる文献複写依頼や現物貸借の受付」、「キャリア支援サービス」、「科目履修支援サービス」、「補習教育支援サービス」、「身体障害学生支援サービス」、「発達障害学生修学支援サービス」の 12 項目それぞれの提供割合は、1 割前後にとどまった。

また、学習支援サービスに学生スタッフが関与している図書館に学生スタッフへの事前研修の有無を尋ねた。事前研修の有無に関して高等教育機関で 138 館の回答があり、そのうち 65 館 (47.1%) が事前研修を実施していた。事前研修の内容としては、OPAC やデータベースの利用の仕方、貸出・返却の仕方などの業務指導やマニュアルの配布、図書館オリエンテーションを担当する学生に対する事前説明会などであった。

これらの結果から、学習支援サービスへの学生スタッフの関与は 2 割程度に留まっており、図書館オリエンテーション、次いで情報通信技術支援サービスに携わっていることが明らかになった。また、事前研修は半数以下に留まっており、サービスの質への影響が危惧される。

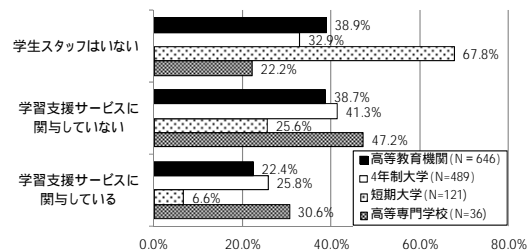


図4 図書館サービスへの学生スタッフの関与 (N=646)

(3) 国内外のラーニング・commonsやインフォメーション・commonsなどの先進的な学習支援空間を対象として現地調査を行った結果、学生アシスタントの意義は、下記の 5 つに集約された。

人的資源の量的・質的補完

チューターとして、情報通信技術活用サポーターとして、レファレンス・スタッフとして、量的・質的に業務・サービスを補完する。

サービス再考・創出の機会

利用者である学生アシスタントが提供者側にたつことによって新たな気づきにつながり、サービスの再考や創出の機会が生まれる。

学生のニーズの把握

学生アシスタントから直接的にきくことによって、学生アシスタントを通じて、学生のニーズをダイレクトに把握することができる。

質問しやすい環境の実現

ピアサポートの観点から、質問しやすい環

境を実現することができる。利用者としての学生は、ピアによる同じ視点からのサポートを受けることができる。

学習の機会・実践の場の提供

学生アシスタントとしての活動は、学生アシスタントのコミュニケーション・スキルを高め、自己認識を高めることができる。

からについては大学図書館の、は利用者、は学生アシスタントそれぞれの観点における意義であるととらえることができる。

また、学生アシスタントによる学習支援の質を担保するためには、事前研修が必須であることが明らかになった。質を保ち、効果的な学習支援を提供するためには、学生アシスタントの意義に留意して、育成プログラムを構築する必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

溝上智恵子. ラーニング・コモンズにおける学修支援の深化をめざして. 大学の図書館, 34(8), 176-178, 2015.8 (査読無)

呑海沙織. ラーニング・コモンズ再考. 図書館界, 66(2), 104-107, 2014.7 (査読無)

呑海沙織・溝上智恵子・孫誌銜. 韓国の大学図書館における学習支援: インフォメーション・コモンズからの飛躍に向けて. 図書館情報メディア研究, 11(1), 45-55, 2013.10 (査読有)

Saori Donkai, Chieko Mizoue. Learning Support in College Libraries in Japan toward Learning Commons. Proceedings of the 5th International Conference on Asia-Pacific Library and Information Education and Practice, 83-90, 2013.7 (査読有)

呑海沙織・溝上智恵子. 日本の大学図書館における学習支援の現状. 大学図書館問題研究会論文誌, 35, 7-18, 2012.8 (査読有)

呑海沙織. 北米の大学図書館における学生アシスタントの役割の歴史的変遷. 情報学, 9(1), 132-141, 2012 (査読有)

呑海沙織・溝上智恵子. 大学図書館におけるラーニング・コモンズの学生アシスタントの意義. 図書館界, 64(2), 176-184, 2011.7 (査読有)

〔学会発表〕(計7件)

呑海沙織, 溝上智恵子, 顧雅威. 日本の大学図書館における学生スタッフの役割の変遷. 第20回日本高等教育学会, 東北大学(宮城県・仙台市), 2017.5.27

顧雅威, 呑海沙織. 大学図書館における学生協働の変遷と意義. 日本図書館研究会第58回(2016年度)研究大会, 吹田市(大阪学院大学), 2017.2.18

呑海沙織. 大学図書館における学習支援の変容: 境界線の溶解. 第4回京都国際図書館フォーラム, 京都大学(京都府・京都市), 2013.8.5

Saori Donkai and Chieko Mizoue. Learning Support in College Libraries in Japan toward Learning Commons. Asia-Pacific Conference on Library and Information Education and Practice: Issues, Challenges and Opportunities. Khon Kaen (Thailand), 2013.7.11

溝上智恵子, 呑海沙織, 松林麻実子. オーストラリアの大学における学習支援空間: ラーニング・コモンズの事例から. 日本高等教育学会第15回大会, 東京大学, 2012.6.2

Saori Donkai, Atsushi Toshimori and Chieko Mizoue. Academic Libraries as Learning Spaces in Japan: Toward the Development of Learning Commons. Asia-Pacific Conference on Library and Information Education and Practice: Issues, Challenges and Opportunities, Putrajaya (Malaysia), 2011.6.23

溝上智恵子, 呑海沙織, 歳森敦. 大学評価と大学図書館における学習支援. 第14回日本高等教育学会, 名城大学(愛知県・名古屋市), 2011.5.29

〔図書〕(計2件)

溝上智恵子編, 溝上智恵子, 呑海沙織他著. 世界のラーニング・コモンズ: 大学教育と「学び」の空間モデル. 樹村房, 2015.3, 292p

呑海沙織. 大学図書館におけるラーニング・コモンズと境界線の溶解. 図書館トリニティの時代から揺らぎ・展開の時代へ(川崎良孝編著), 京都図書館情報学研究会, 2015.2, 441-467

6. 研究組織

(1) 研究代表者

呑海 沙織 (DONKAI, Saori)
筑波大学図書館情報メディア系・教授
研究者番号：60523173

(2) 研究分担者

溝上 智恵子 (MIZOUE, Chieko)
筑波大学図書館情報メディア系・教授
研究者番号：40283030

(3) 研究協力者

赤澤 久弥 (AKAZAWA, Hisaya)
京都大学附属図書館

羅 秋芬 (LUO, Qiufen)
筑波大学大学院図書館情報メディア研究
科・修了生

陳 佳琛 (CHEN, Jiachen)
筑波大学大学院図書館情報メディア研究
科・院生